

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 12 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100397		
法人名	医療法人好縁会		
事業所名	グループホームふれあい戸坂山根		
所在地	広島県広島市東区戸坂山根1-1-19 (電話) 082-220-2050		
自己評価作成日	平成26年11月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100397-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100397-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年12月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「その人らしい生活」を支援するということを1番の目標とし、生活作り10か条を掲げ、生活歴を大切にしている。「自立支援」を常に意識し、食事、入浴、排泄において「座る」ことを重視し介護にあたっている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当事業所は、戸坂地区の中心地、住宅街の一角に位置した2階建ての建物で、閑静ななかにも活気が感じられる環境下であり、医療法人を母体とし、多数のグループ事業所と緊密に連携・相互研鑽を通じて、利用者にとって「終の棲家」となるよう取り組まれている。特に、①近隣の福祉施設と共に地域にしっかりと根付いて行く。②利用者は「生きがい」と「幸せ」を感じ、一日一日が充実した日々を過ごす。③人が生活していく上で必要な基本動作を保持し続ける。以上の事を最重要視して、管理者が常日頃口にされる「常に、自分の親として接する姿勢を」を胸に刻み、職員は利用者への心の籠った支援をしている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念と「生活作り10か条」を基本に、「その人らしい生活」を実現できるよう「幸せ作り計画書」作成し実践している。	法人理念、「生活づくり10か条」、事業所重点方針を定めて事務所に掲示し全職員への周知徹底を図っている。又、理念が実践に繋がれるように、その人に望ましい姿を全職員で話し合い「幸せ作り計画書」を作成し、目標とする状態の達成時期とその為に「今何をするか」「中間時点での姿」を明確にして、日々のケアに取り組みされている。	※「法人の理念」及び「生活づくり10か条」は法人母体＝好縁会のグループ統一のもの
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のスーパー、個人商店、喫茶店、理美容院などをご利用者と利用し、地域と交流する機会を設けている。地域の方に知っていただく事で、緊急時等助けていただける様努めている。年に1度「福祉のひろば」を開催し交流を深めている。	日常の挨拶や地域内の商店の活用、事業所・地域行事にお互いが参加する等、種々の機会を捉え地域の方々との交流を図っている。年に1度、同業の他事業所と「福祉のひろば」と銘打ったイベントを開催し、地域内の独居老人対策や福祉に関する相談に応じたり、子供向けゲームや屋台を楽しむ等の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症介護アドバイザーの資格を有する介護支援専門員の下、地域からの相談や見学に誠意を持って対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の2つのグループホームが合同で運営推進委員会を開催している。互いのグループホームの状況を参考にケアに活かしたり、地域の情報を交換する等利点も多く、出席者から出た意見を反映し、サービスの向上に努めている。	経営母体を同じくする近隣のグループホームと合同で2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、地域包括支援センター職員・民生委員・町内会役員・地域の特別養護老人ホームの副施設長、障害者施設の所長・家族・利用者・職員と多彩なメンバーが参加され幅広い意見交換を行い、会議がサービスの質の向上に繋がるよう取り組まれている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	認知症介護アドバイザーの資格を有する職員が、認知症サポーター要請講座の講師を努めたり、市や地域の福祉サービス事業に協力している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加されて、相談や質問に答える等の協力関係が築かれている。又、市や区役所からの要請により認知症サポーター養成講座の講師を当事業所職員が務める等の協力も見られる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修において身体拘束をしないケアの重要性について周知徹底している。利用者様がいつでも外へ出ることが出来るように環境を整え、外出したいときは常に職員と一緒に外出対応している。</p>	<p>法人研修・事業所内研修・外部研修等を通じて、全職員は「身体拘束をしないケア」の理解と実践は徹底するよう取り組まれている。又、言葉による拘束等については、その場で職員間で指摘しあって、お互いが原因の明確化と対処法を検討して改善に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修において虐待防止の周知徹底を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度の理解を深める勉強会を行う等したい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書及び契約書を提示し、契約の締結、解約、改定について具体的に説明している。入居後もご家族の不安などについては、リーダー、各担当者を中心に誠意を持って対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>職員は、担当する利用者様について、ご家族と連絡を密にとり、意見や要望を伺い把握するよう努めている。意見や要望は管理者に報告し、職員で検討して改善している。</p>	<p>あらゆる機会を通じて、利用者・家族からの意見は細大漏らさず聴取するように努め、それらの意見は職員や外部者が共有できるよう記録に残し、事業所の運営に反映されている。1例として、家族より衣服等の紛失が指摘された事を機に「ケアノート」を作成し、全利用者の所有物の把握・管理をしている。</p>	<p>※ 「ケアノート」とは利用者の私有物は全て「持ち物チェックリスト」に記載し、洋服等は写真を添付して利用者の所有物の管理、把握を行っている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のリーダー会議、全体会議において管理者、リーダー、現場職員との意見交換を行い、運営に反映するよう努めている。</p>	<p>常日頃から管理者は各職員が思った事は何でも話せるような雰囲気作りに配慮し、リーダー制度等も活用して職員意見の聴取に努めている。又、それらの意見は、リーダー会議（月1回）全体会議（年2回）で上層部にも伝えられ、職員の数多くの意見・要望（勤務日程、休憩室の確保など）が事業所運営に活かされるようになっていく。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人内で評価基準が明確にあり、職員個々の努力により、給与水準や、役職等向上することが出来るようになっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内には教育研修部があり、職員それぞれの状況に応じた研修が数多く受けられる様になっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等との連携を密に行い、情報交換等連携を図っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>初回面接時には、ご本人の不安や要望を聞くことに重点を置き、信頼関係を構築するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの利用開始から、家族の困っている事、不安、要望をしっかりと聞きし、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	電話や面談等の相談時には、ご本人やご家族のニーズを把握し、問題点を整理した上で、その後のサービスの提案を行っている。また、画一的にグループホームを勧めるのではなく、他のサービスの提案・紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「共にある」という考えを大切にし、一緒に行える事は一緒にする。どんな時でも寄り添うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	グループホームに入居したら在宅へは戻らないという考えを無くし、常に家族との関係を大切に、外泊や外出を薦めている。外泊・外出時には、車椅子の準備や注意点を記入したシートを作成しお渡しする等、出来る限りの援助を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の知人・友人の来所時には、職員は暖かく出迎え、気兼ね無く訪問して頂けるよう努めている。又馴染みの場所への外出時には、職員が付き添い対応している。	利用者の人生歴を詳細に熟知し、入居前に利用者に関わりがあった人や場所を話題に思い出話を語る事により馴染みの人や場所を紐解き、利用者の希望に沿って従来の関係が途切れないように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事席やレクリエーションの席配置等、ご利用者の関係に配慮し設定している。職員が間に入り、コミュニケーションがスムーズに行え関係作りが円滑に行えるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでに事例は無いが、今後在宅復帰されるご利用者がいれば、安心して生活が出来るようにフォローできる環境を整えたい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の思いを把握する為に話しやすい環境を作り、傾聴している。会話から要望を把握したら実現するよう全職員で取り組んでいる。	利用者日々のコミュニケーションを取るなかで、その人の人生歴（ライフストーリー）を紐解き、幸せ作り計画書（希望・夢）が、利用者お一人おひとりの思いに添うよう努めている。次世代リーダー研修の中で、職員は昔の生活様式を学び当時の時代背景や利用者のくらしぶりを把握、理解しやすいように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。	各ご利用者に担当職員を配置し、1人1人の生活歴をまとめたライフストーリーシートを作成し、全職員が把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	訪問看護と連携し、心身の状況をしっかりと把握している。法人で状態レベルのシートを活用しており、有する力の現状把握、共有に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングでは、担当職員が計画を見直し、その後全員で意見を出し合い、本人様ご家族様とのカンファレンスに臨んでいる。また、モニタリングの結果が必要であれば、プランを見直し、新しい取り組みを導入するよう努めている。</p>	<p>仮の計画書を担当職員が作成し、其れを家族、利用者、ケアマネージャー及び関係者が吟味し、話し合いを経て介護計画の作成が行われている。毎月のモニタリングと「ライフストーリー」「幸せ作り計画書」を担当職員が作成して次回の介護計画がより現状に即したものとなる様に参考資料としている。</p>	<p>※「ライフストーリー」＝利用者の誕生から現在までの歴史を記載したもの          ※「幸せ作り計画書」＝利用者が6ヶ月後に幸せ！（生きていてよかった！）と思える姿は何か？その為に3ヶ月後、今現在何をすべきかを職員間で話し合った記録</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の状況を生活状況記録、個別記録に記載し、全職員が毎日確認し、利用者様の状態を把握して情報の共有に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医師、看護師との連携を密に行い、他職種からの意見も必要に応じて取り入れ、サービスに反映している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>周辺の医療、消防、警察と連携を図り、安全で快適に生活できるようにしている。また、近くのタクシー会社や理髪店にもグループホームを知っていただいているので、緊急時には支援して頂ける関係を構築している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時にかかりつけの病院、医師の情報を伺い、スムーズな受診が行えるようにしている。</p>	<p>入居時に、従来のかかりつけ医を事業所の協力医に変更し月3回の往診、訪問看護、年2回の定期検診が行われ、それらの対応は職員がされている。又、専門医の受診は家族が対応し受診結果等の医療情報は家族・職員間で詳細に共有するよう取り組み適切な医療支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	法人内の訪問看護師と連携し、24時間電話連絡が出来、急変時には適切な看護や受診が受けられる体制が出来ている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は医師からの紹介状だけでなく、介護職員が付き添い日頃の情報や急変時の情報を説明している。また、入院中も面会回数を多くしている。退院時は管理者が退院時カンファレンスを行いスムーズな退院につなげている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	グループホームとし、終末期ケアを行う方針であり、入居時に、ご本人、ご家族から意向を伺っている。主治医の判断で終末期ケアへの移行が必要となった場合は治療方針、ケアの方針をご本人、ご家族、医師を交えて話しあい終末期ケアへ臨んでいる。	入居時に看取りについて説明し、書面による意向確認を行っている。実際に利用者が重度化された場合は、関係者の総意に基づいた介護計画を作成し、各自が一致協力の下で対応されている。これまでに数例の看取りを行い、家族からは深い感謝の意とお礼の言葉を戴いている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	年1回法人内で消防署に協力していただき、救命講習を開催し参加している。法人内の医療、看護より指導、助言を受けている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回行われる避難訓練では、消防署の立会いの下、初期消火と避難誘導を主体に行っている。防火管理者が日頃より避難経路や防火点検を行い確認している。また、職員に対して、通報訓練等防火管理者を中心に行っている。	避難訓練は、夜間想定や消防署の指導を受け、定例的に実施されている。現在は、周辺地域の協力体制の構築と法人内の協力体制の見直しや手順・役割の明確化等の、一歩踏み込んだ災害対策に取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけは十分配慮している。トイレや浴室前にはプライバシーを守る為、カーテンを設置し、中が見えないよう配慮している。	利用者の人格の尊重とプライバシー確保の問題は、研修会や諸会議、ミーティングを通じて職員間で話し合わせ確認と厳正な対応に取り組まれている。又、個人情報の取り扱いについても守秘義務を徹底し、責任ある取り扱いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り本人の思いや希望を引き出すよう努め、可能な限りご本人の意思を尊重するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	外へ出たいご利用者に対しては、散歩やドライブへ出掛けたり、食事の時間もご本人の食べたい時間に出来る限り合わせ等、希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服や靴、化粧道具などご本人と買物へ行き購入している。朝の整容は環境を設定し、出来ない方は支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの好みを把握出来るよう聞き取りを行い、メニューに反映している。準備や後片付けを一緒に行い、食事時間は職員も一緒に楽しみながら食べている。	1日1回はケータリング（冷凍食品の配送）を利用するも残り2回は利用者と共に準備した手造りの食事が提供されている。利用者と職員がテーブルを囲み楽しく会話を交えながらの食事風景は多くの笑顔が見られた。又、外食やお庭でのバーベキュー、そうめん流し等も適宜取り入れられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事、水分はそれぞれのご利用者に合わせた形態で提供している。1日に水分摂取量は1500CCを目標とし、認知症ケアの基本を徹底している。食事量、水分摂取量は個別に記録している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後必ず、ご自分で出来ない方には援助し、口腔ケアを行っている。訪問歯科を利用しており、必要な利用者は往診により、口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>出来る限り紙オムツを使用せず、トイレで排泄が出来るよう取り組んでいる。</p>	<p>各利用者の排泄のモニタリング表を作成し、根気よく排泄パターンの把握に挑みトイレでの排泄を支援している。結果、日中の紙パンツ使用者は特例を除きゼロで、ハード面でもトイレ内の各種設備を整え、障害があろうとも「排泄はトイレで自分で行う」事に徹した取り組みが行われている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>基本である食事、水分、運動に関して職員全員が理解し取り組んでいる。特に、運動面では、毎日遊びリレーションを行い、排便を促す運動を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>最後まで人間らしい入浴が出来るように環境を整えている。環境整備と職員の介護技術の向上に努めている。入浴の時間やタイミングは柔軟に対応し、入浴を楽しんでいただけるよう努めている。</p>	<p>入浴については、浴槽で「ほっ！」と寛ぎ思わず手足を思いっきり伸ばす事を重視している。入浴日は一応の予定は組まれているが、利用者の希望に添って「癒しと明日へ活力」に繋がるような入浴支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングにソファを多く設置し、休みたいときに楽な姿勢で休める環境を整えている。夜間しっかりと休めるように日中は、メリハリのある生活ができるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者の担当職員が服薬リストを作成し、確認できるように一覧にしてファイリングしている。往診時に、主治医へ日常の様子について報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	嗜好品については、ご本人、ご家族の希望に添い提供している。掃除、洗濯、料理等役割を持って生活されている。ご本人の希望に添い外出、ドライブ等気分転換を随時行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人様の希望による買物や外出は個別に対応し、急な外出希望であってもドライブや散歩等対応している。又一緒に日々の食材の買い出しに行っている。	外の空気を味わう事の大切さを重視し、散歩、買い物等に出かけると共に、気分転換に市内のイルミネーションを楽しんだり、車を利用して出掛ける事を職員が計画して、積極的な外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、お金を持っているご利用者は無く、立替という形で買物をいただいている。要望があればご本人、ご家族の同意の下、お金を持つことも可能である。その際は、金銭管理帳を作り管理するように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望により、事務所での電話の取次ぎを行っている。携帯電話を所持しているご利用者もいる。携帯電話の使い方が分からないときには職員が支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースには温度計、湿度計を設置し管理している。食道、浴室、トイレは清潔に保つよう心がけている。	1、2階が同じ造りの二階建て建物で、共用空間はゆったりとしたスペースが確保され、居間と廊下に大きめのソファを置き寛ぎの場が確保されている。又、食堂兼居間には利用者の体形に応じた高さの机と椅子が置かれ、特に机は2つ合わせると六角形となり、交流しやすいように工夫されている。さり気なく飾られたクリスマスツリーで季節感を感じてもらうように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースには、テーブル席の他、ソファを用意し、1人になれたり、他者と交流できる環境を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が自宅で使っていた慣れ親しんだ家具や品物を持ってきていただき、馴染みの物に囲まれ、安心して生活できるように配慮している。	居室入り口には、利用者の思いが籠った表札と担当職員の顔写真入りの名札が掛けられ空調機とベッドは備え付けとなっている。又、室内には利用者の愛用品や使い慣れた物が持ち込まれ、快適な生活が送られるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が出来るように、数センチ単位で椅子を個別に設置し、自立支援につなげている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい戸坂山根

作成日 平成26年12月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策について、地域との協力体制	近隣住民や自治体との協力体制を明確にする	避難場所の確保や、協力者の連絡先を伺い、連絡網を作成する	1ヶ月
2				災害別に具体的な非難の手順、役割分担の作成をする	6ヶ月～1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。